

令和 2 年度

協同農業普及事業の外部第三者評価会議

【 配 布 資 料 】

1 普及指導活動成果発表

- (1) 知多地域における稲WCSの品質安定と継続利用に向けた取組（知多）
- (2) リーダー農家との協働によるGAPの普及（西三河）
- (3) 集落ぐるみの獣害対策支援（新城設楽）
- (4) 豚熱発生農家における経営再建の支援（田原）

2 普及指導基本計画（対象年度：2016～2020年度）総合評価表

(令和2年度協同農業普及事業の外部第三者評価資料)

普及指導基本計画 重点課題総合評価とりまとめ

	課題数	推進事項数	達成度 (注)					
			A		B		C	
担い手	10	56	53	95%	3	5%	0	0%
技術 作物	12	48	41	85%	4	8%	3	6%
野菜	22	97	73	75%	14	14%	10	10%
花き	15	60	48	80%	6	10%	6	10%
果樹	13	50	40	80%	4	8%	5	10%
畜産	8	33	30	91%	2	6%	1	3%
地域	9	34	23	68%	4	12%	7	21%
計	89	378	308	81%	37	10%	32	8%

(注) 達成度の判定基準

数値目標：A＝80%以上 B＝80%未満～60%以上 C＝60%未満

数値目標以外：数値目標の判定基準に準じ、対象の行動、意識等の変化を総合的・客観的に判断。

知多地域における稲WCSの 品質安定と継続利用に向けた取組



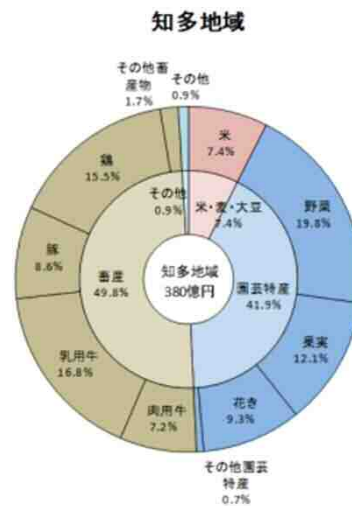
知多農林水産事務所農業改良普及課
石川由紀子

1

知多地域の農業

都市近郊地域としての立地条件と温暖な気候を活かし、野菜、果樹、花き、畜産の各作目間でバランスの取れた産地を形成している。

また、畜産が農業産出額380億円全体の半分（H27年）を占めていることが大きな特徴である。



2

1 課題の背景

- 平成19年度の飼料高騰を受け、国産飼料の利用が進められ、知多地域で生産された稲WCSを利用する養牛経営体が出てきた。
- 経営所得安定対策で稲WCSの栽培が推進され、麦・大豆が定着していない知多地域では平成21年から試験的に実施し、稲WCSに活路を見いだしていた。
- 平成27年の稲WCS栽培面積は38.9ha、利用する養牛経営体は12戸であった。

3

2 問題点

- 収穫時期の都合で「コシヒカリ」を栽培しており、平成27年度には栽培面積の約60%を占めているが、倒伏による品質の低下が問題となっている。
- また、「コシヒカリ」は茎葉比率が低く、養牛経営体は「たちすずか」のような茎葉比率の高い多収性品種を望む声が多くなっている。
- 実需者である養牛経営体が、継続的な利用に対して品質や需給調整を不安に思っている。

4

3 目標

- ① コシヒカリを倒伏しない多収性品種に切り替える。
- ② 養牛経営体が継続して利用できる体制づくり
(品質安定、需給調整)

5

4 農業改良普及課の取組

- ① コシヒカリを倒伏しない多収性品種に切り替える

平成27年度の品種と収穫時期

8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬
コシヒカリ					モミロマン たちすずか		

倒伏で品質低下しやすい「コシヒカリ」を倒伏しない多収性専用品種に変え、生産安定を図る

候補：たちあやか、たちすがた、夢あおば、
なつあおば

6

コシヒカリに変わる品種の特徴

候補品種	収穫時期 (コシヒカリ比)	養牛経営 体の好み	注意点
なつあおば	7月下旬～ 8月上旬 (やや早い)	○	種子が販売されていないため、許諾を受けて自家採種しなければならない
夢あおば	8月上中旬 (ほぼ同等)	○	種子がやや高い
たちあやか	9月上旬 (やや遅い)	◎	種子が高価 販売数量が少なく手に入りにくい
たちすがた	9月上旬 (やや遅い)	○	種子の販売先が限られる

7

品種の試験栽培、生育調査実施
栽培暦の作成と導入推進



平成28年 「たちあやか」、「たちすがた」が一部で導入

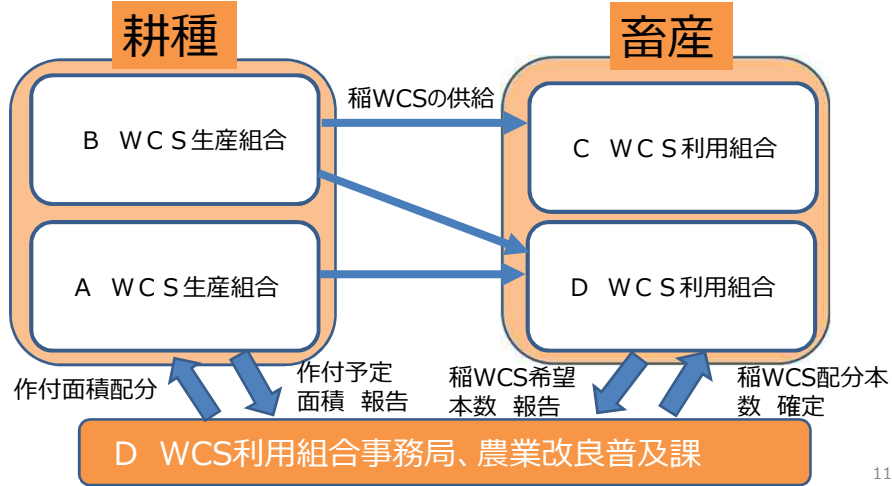
平成29年 「夢あおば」が一部で導入

令和元年 「なつあおば」が一部で導入

8

・需給調整

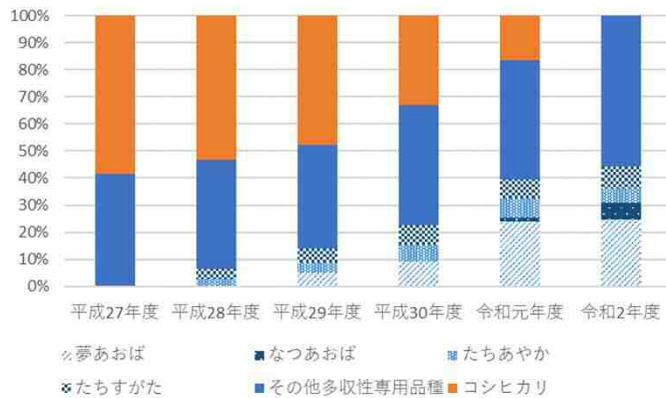
養牛経営体の要望に応じて、耕種経営体の供給先や供給量を調整体制の整備



11

5 成果

① コシヒカリを倒伏しない多収性品種に切替



倒伏しやすいコシヒカリは、倒れにくい多収性品種に100%切り替えられた。

12



稲WCSの品質に問題があった場合は、ラッピングの表示から稲WCS収穫時の状況を、確認し、問題の原因を検討できるトレーサビリティ体制を整備した。

稲WCS収穫時確認リスト

		WCS生産者種名				
収穫日	8/11	8/11	8/11	8/11	8/11	8/11
生産者	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ
収穫作業者	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
管理番号	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ
品種名	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ
天候	晴	晴	晴	晴	晴	晴
圃場の状態	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる	1. 十分乾燥 2. 農具の跡が 4. ぬかるんでいる
稲の水分状態	①・中・多	②・中・多	③・中・多	④・中・多	⑤・中・多	⑥・中・多
玉割スライス(稲の状態)	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()
乳・()・() 乳・()・() 乳・()・() 乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()	乳・()・()
稲の乾燥状態	①・中・多	②・中・多	③・中・多	④・中・多	⑤・中・多	⑥・中・多
稲の細断状態	良好・不良	良好・不良	良好・不良	良好・不良	良好・不良	良好・不良
ラッピング(5層以上)	①層以上	②層以上	③層以上	④層以上	⑤層以上	⑥層以上
ラッピング(5層未満)	①層未満	②層未満	③層未満	④層未満	⑤層未満	⑥層未満
傷及び穴	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
穴の補修	両ラベリング	両ラベリング	両ラベリング	両ラベリング	両ラベリング	両ラベリング
穴の補修	補修	補修	補修	補修	補修	補修
その他の異常	補修せず	補修せず	補修せず	補修せず	補修せず	補修せず
その他の異常	有()・無()	有()・無()	有()・無()	有()・無()	有()・無()	有()・無()
収穫ロール数	21	24	19	9	8	8
ローラ番号	80~100	101~114	115~133	134~142	143~150	151~160
製造年						

稲WCSの品質問題の原因を収穫時確認リストを基に明確化

栽培中
品種・ほ場・生産者

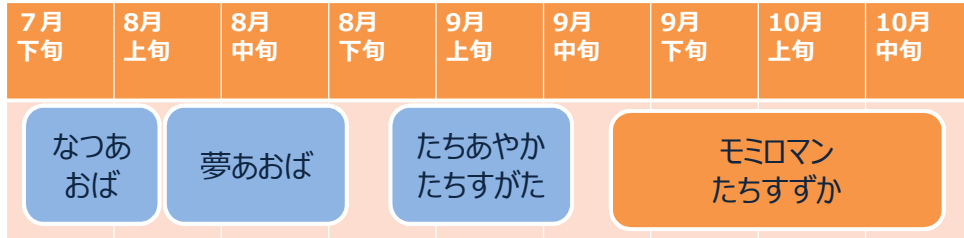
収穫時
水分量・天候・生育
ステージ

保管後
ラップ傷・破れ

平成27年度の品種と収穫時期



令和2年度の品種と収穫時期



倒伏しにくい多収性品種になったことに加え、収穫時期の分散にもつながり、更に品質が安定した。

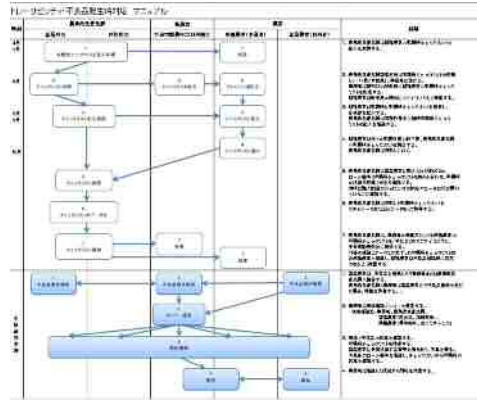
5 成果

② 養牛経営体の継続利用

- 品質安定
- 収穫時確認リストに基づくトレーサビリティ体制の定着
- 不良品発生時の対応のマニュアル化



平成29年度以降
不良品発生なし



5 成果

③ 需給調整マニュアル化

需給調整 マニュアル						
時期	農業改良普及課		事務局 半田市農業WOS利用組合	農家		
	畜産担当	作物担当		耕種農家(生産者)	畜産農家(利用者)	
11月			1 次年度希望本数・作付予定面積調査			1. 半日 耕種
	2 需給バランスの確認 需給調整会議打合せ					2. 需 給 開 催
12月	3 需給調整会議					3. 開 催 事 務 課 と 農 家 の 間 で の 需 給 調 整 議 議
~2月	4 配分計画の作成		4 配分計画の作成			4. 需 給 調 整 議 議 の 結 果 を 基 に 配 分 計 画 の 作 成
4月	5 生産・利用検討会(契約前需給調整会議)					5. 需 給 調 整 議 議 の 結 果 を 基 に 配 分 計 画 の 作 成

マニュアルに、時期、実施者、実施内容を細かく明記した。

5 成果

④ 飼料作コントラクターの経営確立

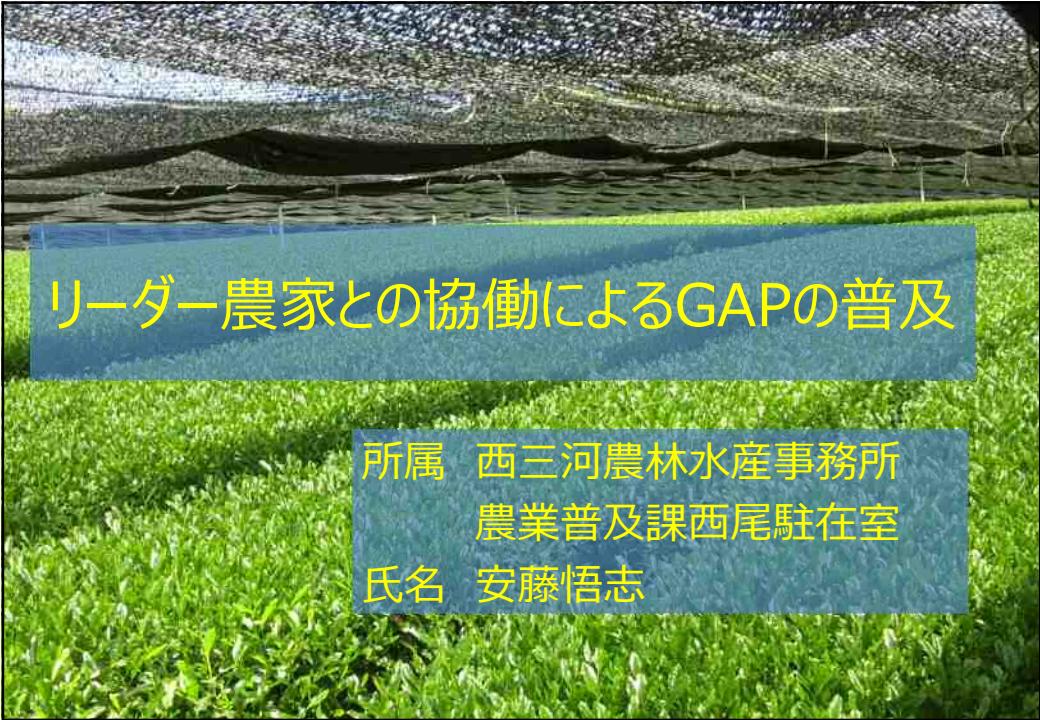
稲WCS 9 ha、飼料用米34ha
飼料用トウモロコシ(トウモロコシサイレージ) 7 ha
稲WCS収穫受託 7市町 約50ha



6 普及活動における工夫点

- ・「コシヒカリ」を倒伏しない多収性品種に切替
養牛経営体の要望を優先しつつ、生産者の
条件(品種の入手、収穫時期等)も考慮し推進





リーダー農家との協働によるGAPの普及

所属 西三河農林水産事務所
農業普及課西尾駐在室
氏名 安藤悟志



1 課題の背景

- 大正時代後期から、抹茶の原料であるてん茶を生産
- 生産者組織
西尾市茶業組合102名、吉良茶業組合25名
- 2018年度から愛知県GAP認証制度が始まった
- 西尾市の茶栽培農家のGAP取得状況（2018年当時）
AsiaGAP：1名 JGAP：5名
GAPに対する関心は高かった
- 東京オリンピック・パラリンピックに食材を提供するためには、GAPの取得が前提条件であった

